

国史跡赤穂城跡

本丸跡



(撮影：出水伯明)

赤穂城の沿革

赤穂城は、正保2（1645）年に常陸国笠間（現在の茨城県笠間市）から入封した浅野内匠頭長直が、近藤三郎左衛門正純に築城設計を命じ、13年の歳月を費やし、寛文元（1661）年に完成させたものであり、石垣土塁、堀を中心とした縄張り遺構がよく遺されていることや、甲州流軍学による工夫が随所に見られることから、昭和46（1971）年に国の史跡に指定されている。城郭の縄張りは、本丸と二

之丸は輪郭式、二之丸と三之丸の関係は梯郭式になっており、近世城郭史上非常に珍しい変形輪郭式の瀬戸内海に面した海城である。曲輪の延長は2,847m、面積は63,711㎡に及んでいる。石垣土塁、堀、隅櫓（10）、諸門（12）、番所、藩邸、蔵、馬場、池泉庭園、重臣の屋敷などが整えられ、居城としての威容が示されたが、天守台のみ築かれて天守は構築されなかった。

本丸の面積は、約 15,114 m²を測る。石垣の大部分は打込みハギで、城壁では横矢入隅、横矢出隅、横矢桁形、横矢斜、横矢角落といった横矢掛の工夫が見られる。隅櫓は、東北隅櫓台のみに二重櫓が建っていた。門は、本丸門、厩口門（後に台所門と呼ばれた）、刎橋門の3門からなり、本丸門は一の門（櫓門）と二の門（高麗門）の多門で桁形を構えている。

本丸の中央には藩邸があり、御殿は西側に表向、中央に中奥、東側に奥向が配されており、御殿の北には蔵、小姓部屋が、南東には天守台、南には池泉庭園が配置されていた。

明治の廃藩置県後に田畑となっていたが、昭和3（1928）年に兵庫県立赤穂中学校（現在の赤穂高等学校）校舎が竣工した。昭和46（1971）年に国の史跡となり、昭和56（1981）年に校舎は城外に移転し、翌年より本丸跡の本格的な整備が始まった。

発掘調査によって本丸内の旧上水道関連遺構、池泉が検出され、復元整備が行われた。また、「浅野家やしき絵図」をもとに御殿の間取り復元が行われた。さらに本丸門、厩口門などの建造物の復元整備が完成した。平成14（2002）年には池泉を中心とした部分が「旧赤穂城庭園」として二之丸庭園とともに国の名勝に指定された。



本丸門



大池泉



坪庭池泉



天守台



本丸御殿間取り復元

利用案内

- 交通 J R 播州赤穂駅から徒歩約 20 分
J R 相生駅から車約 25 分
山陽自動車道赤穂インターから車約 10 分
- 開園時間 9:00~16:30（入園は16:00まで）
- 休園日 年末年始（12月28日~1月4日）
- 問合せ先 赤穂市教育委員会 生涯学習課 文化財係
〒678-0292 赤穂市加里屋81番地
TEL 0791-43-6962

公式 WEB



日本 100 名城スタンプは本丸櫓門下及び赤穂市立歴史博物館内にあります。

記念スタンプ

